

1. 社会・治安情勢

- (1) リオデジャネイロ州全域でけん銃や小銃、手榴弾等を使用した殺人、強盗等の凶悪事件が引き続き多発している。

特に2016年以降、リオ州の財政破綻によって警察当局が治安対策のために必要な人的・物的対策を十分に整備することが困難となったこともあり、オリンピック・パラリンピックが終了した一昨年後半から急激に体感治安が悪化している。

- (2) 依然として貧困層の少年らによる「アハスタオン（地引き網）」と呼ばれる集団強盗事件が市内中心部や海岸、幹線道路沿いで発生しており、治安当局もこれらの取締りを強化しているが、健全育成の方針を主眼とした少年法の影響により、逮捕した被疑少年の多くがすぐに釈放されてしまうなど、警察による取締りが治安改善に直結していない現状にある。

- (3) また、リオデジャネイロ市内及びその周辺に約1,000か所存在するといわれるファベラ（スラム街）を中心に敵対する麻薬密売組織間における抗争が激化するとともに、UPPをはじめとした治安当局と麻薬密売組織間における銃撃戦が頻発しており、流れ弾による一般市民の被害が後を絶たない。

さらに、幹線道路等においては、積荷を積載した車両を襲撃し、車両ごと強取する積荷強盗が多発しており、喫緊の課題となっている。

- (4) これら課題に対処するため、連邦政府による国家治安計画に基づき、昨年7月28日から総計10,240名から成る国軍兵士や国家治安軍、連邦道路警察官等がリオ州内へ投入され、薬物銃器・積荷強盗対策に従事するも、その根絶には至らず、本年2月16日以降、大統領令による連邦政府主導の治安対策が試みられているが、具体的成果には結びついていない。

- (5) リオ州政府としても、連邦政府主導の下、治安を担当する公安局が中心となり、治安回復に取り組んではいるものの、州の財政難による警察官新規採用の見送りや装備・資器材の故障、殉職・離職警察官の増加、組織的な汚職警察官の摘発等により警察力が低下する一方、凶悪犯罪は増加しており、犯罪の増加に歯止めを掛けられない状況にある。

- (6) また、長引く不況を背景として、リオ市内におけるホームレスの数も数年前と比較して激増しており、麻薬中毒者が街中を徘徊するなど、こうした状況が体感治安の悪化に拍車を掛けている一つの要因とも言える。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) リオ州公安局統計院（ISP）によれば、2017年のリオ市内における殺人事件発生件数は1,487件で、前年と比べて157件（約11.8%）増加している。また、強盗事件発生件数は12万3,142件で、前年と比べて2万128件（約

- 19.5%) 増加しており、とりわけ車両強盗や携帯電話強盗の増加が著しい。
- (2) 2017年のリオ市人口10万人当たりの犯罪発生率を日本と比較した場合、殺人事件が約32倍(2014年は23倍)、強盗事件が約1,300倍(2014年は510倍)と極めて高い比率で推移している。
- (3) 麻薬密売組織間における抗争を背景として、ファベール周辺の治安が急激に悪化しており、この流れは、これまで比較的安全と目されてきたリオ市南部地区においても例外ではなく、注意が必要である。

3. リオ州犯罪発生状況 2018年4月(対前年同月比増減数)

	リオ州	リオ市
殺人	475 (+39)	136 (+14)
強制性交等	427 (+64)	160 (+43)
商業施設強盗	664 (+12)	351 (+30)
住居侵入強盗	103 (-24)	36 (-8)
車両強盗	4,657 (-234)	2,109 (-181)
路上強盗	7,602 (-941)	3,798 (-632)
交通機関内強盗	1,352 (-239)	799 (-89)
携帯電話強盗	2,103 (-417)	1,160 (-199)
強盗総数	19,977 (-2,951)	10,190 (-1,899)
窃盗総数	11,507 (-1,204)	6,482 (-1,223)
取扱件数	64,527 (-3,435)	31,191 (-3,165)

4. リオ州犯罪発生状況 2018年1月～4月(対前年同期比増減数)

殺人	1,884 (-32)
強盗	81,648 (+15,292)
窃盗	48,637 (+6,437)
交通事故死者数	617 (-67)
取扱件数	259,630 (+48,635)

5. リオ市南部犯罪発生状況 2018年4月(前年同月比増減数)

【フラメンゴ・ボタフォゴ地区】

殺人	1 (+1)
商業施設強盗	43 (+20)
住居侵入強盗	0 (-2)
車両強盗	77 (+23)
路上強盗	166 (+34)
交通機関内強盗	16 (-8)
携帯電話強盗	54 (+17)

強盗総数	428 (+89)
窃盗総数	438 (-56)
取扱件数	1,486 (+36)

【コパカバーナ地区】

殺人	2 (+1)
商業施設強盗	7 (-5)
住居侵入強盗	0 (-1)
車両強盗	1 (-5)
路上強盗	43 (-60)
交通機関内強盗	3 (-13)
携帯電話強盗	11 (-29)
強盗総数	98 (-178)
窃盗総数	462 (-401)
取扱件数	1,075 (-792)

【イパネマ・レブロン地区】

殺人	0 (-2)
商業施設強盗	11 (+5)
住居侵入強盗	1 (±0)
車両強盗	17 (+9)
路上強盗	48 (-63)
交通機関内強盗	8 (-8)
携帯電話強盗	15 (-16)
強盗総数	118 (-101)
窃盗総数	345 (-80)
取扱件数	1,001 (-91)

6. 一般事件等（邦人の安全に係るものを抜粋）

（1）『ラパ水道橋』で強盗未遂事件が発生

4月2日（月）夜、リオ市ラパ地区の『ラパ水道橋（Arcos da Lapa）』において、2名の女装した男性がナイフを用いて外国人男性観光客を襲おうとしたとして、強盗未遂容疑で身柄を拘束された。

（2）シダージ・デ・デウス（スラム街）における銃撃戦の発生

5月3日早朝から、リオ市西部シダージ・デ・デウス地区（Cidade de Deus）において、治安当局及び麻薬密売組織間における銃撃戦が発生、多数の死

傷者が出るとともに、この影響により、付近を走る自動車専用道路リーニャ・アマレーラ (Linha Amarela) が断続的に通行止めとなった。

- (3) 『バビロニア (スラム街)』及び『シャペウ・マンゲイラ (スラム街)』における銃撃戦の発生
5月4日早朝、リオ市南部レーメ地区の『バビロニア (Babilônia)』及び『シャペウ・マンゲイラ (Chapéu Mangueira)』において、治安当局と麻薬密売組織間における銃撃戦が発生した。
- (4) ラランジェイラス地区における ATM 爆破窃盗事件の連続発生
5月24日(木)午前2時50分頃、リオ市ラランジェイラス通り475 (Rua das Laranjeiras 475) 所在のブラジル銀行 (BANCO DO BRASIL) において、当月同所周辺において3件目となる ATM 爆破窃盗事件が発生、被疑者らは現場から車両にて逃走した。
- (5) ボタフォゴ地区における邦人企業スタッフ (女性) の強盗被害
被害者は、5月29日午後2時頃、帰社するため、リオ市ボタフォゴ地区プライア・デ・ボタフォゴ 501 (Praia de Botafogo) 番地付近路上を歩いていたところ、近寄ってきた若い二人組の男から、「銃を持っている、持っているカバンを寄こせ。」等と脅され、財布やクレジットカード、身分証明書、携帯電話等在中のショルダーバッグを強取された。
- (6) ミナス・ジェライス州内で放火等襲撃事件が続発
6月3日(日)以降、ミナス・ジェライス州内の州都等35市において、バスや銀行、郵便局、警察施設等を狙った放火等襲撃事件が連続発生(100件以上)した。
- (7) 『ウルカ地区』における銃撃戦の発生
6月8日午後3時頃、リオ市南部ウルカ地区の『プライア・ベルメーリャ (Praia Vermelha)』周辺において、リオ州軍警察と犯罪組織との間で銃撃戦が発生し、軍警察官が手榴弾の破片により負傷、『パン・デ・アスーカル』のロープウェイが運休となった。

7. 邦人被害

- (1) 窃盗事件 (ひったくり)
4月15日午前8時頃、リオ市バスターミナル周辺において、被害者 (男性観光客) が写真撮影をしていたところ、突然目の前に若い二人組の男が現れ、所携のカメラを窃取された。

(2) 窃盗事件 (すり)

被害者(女性)は、5月3日午前8時40分頃、リオ市ボタフォゴ地区所在の『ショッピング・リオ・スル』前バス停留所において市内循環バス『433号線』に乗車、同日午前9時頃、プライア・ド・フラメンゴ前バス停留所において同バスから降車後、携帯電話機を使用しようとしたところ、ズボンの後部ポケットに差し込んでおいたはずの携帯電話機(iPhone)がないことに気付き、本件被害を認知した。

(3) 窃盗事件 (ひったくり)

被害者(男性観光客、20代後半)は、5月18日午前8時30分頃、リオ市ラパ地区ラパ水道橋周辺を一人で散策していたところ、3人組の男性(20~25歳位、身長170~180cm位、細身)から親しげに近寄られ、いきなり携帯していた携帯電話機(iPhone 6S)1台を窃取された。

(4) 窃盗事件

被害者(女性観光客)らは、5月18日午後3時頃、リオ市セントロ地区マレシャル・カマラ大通り(Av. Marechal Camara)を歩いていたところ、何者かに現金や携帯電話機、カメラ等を窃取された。

8. テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は認知していない。

9. 誘拐・恐喝事件発生状況

邦人被害は認知していない。

2018年1月から4月までの間、リオ州内で短時間誘拐33件(4月中13件)、恐喝461件(4月中99件)が発生しており、いずれも高い水準で推移している。